

ABA 海外視察レポート 第 2 弾

2015 年 韓国視察および KiC との MOU 締結

実施報告書（要約） パート 4 KiC との交流

4. 韓国建築施工学会（KiC）

4.1 学会の概要

韓国建築施工学会は 2001 年 5 月に設立され、建築物の材料施工を主対象とする学術団体であり、現在の会員数は 4000 名であるが、会費の納入がなされなくても督促したり、除名したりすることはないため、実際に活動している会員は限られているようである。また、学会運営をする理事の構成は大学関係者のほかに、建設会社の役員が含まれているのが特徴とのことである。

韓国においても、建築の全分野（構造系と計画系）を対象として日本建築学会に相当する大韓建築学会は存在するが、建築物を実際に造り込むことや保全をしていくことを主対象とする具体的な材料施工の分野を取扱う学会として、KiC が設立されている。

2013 年 2 月に、日本建築仕上学会に対して両学会による研究協力の申入れがあり、5 月に日本建築仕上学会副会長（当時）である近藤照夫が KiC 春季大会に参加して、「日本建築仕上学会の概要と日本における建築仕上げの現状」と題する特別講演をしたことをきっかけとして、両学会による研究協力が具体化した。

2013 年 11 月に、日本建築仕上学会会長（当時）である芝浦工業大学本橋健司教授と、副会長（当時、現会長）である首都大学東京橋高義典教授がソウルへ赴き、研究協力の MOU（覚書；Memorandum of Understanding）を締結して、両学会の研究協力が開始された。

具体的には、協同セミナーの開催や両学会刊行物の相互交換、必要に応じて翻訳出版等が具体的な活動内容とされ、2014 年 10 月には日本建築仕上学会 2014 年大会において、第 1 回日韓協同セミナーが開催され、両学会の会長と副会長による講演が実施された。さらに、2014 年 12 月には日本建築仕上学会発行「耐火塗料の施工指針・同解説」が翻訳出版されて、記念講演会がソウルで開催されることになり、上記指針の編集と監修を担当した副会長（当時）の近藤が参加して、指針の内容を紹介した。

今後は、2 年に 1 回の頻度で日韓協同セミナーが持ち回りで開催されることが同意され、2016 年には韓国での開催が予定されている。

4.2 ABA との MOU 締結経緯

ABA による今年度の工業会活動の一環として韓国視察の企画が検討され、後藤専務理事から顧問である近藤に相談された。有意義な視察となるように、韓国内の塗料製造工場や塗装工場の視察のみではなく、韓国の関連団体との接触が期待された。

近藤から KiC の窓口である権 理事（湖西大学校教授）に相談すると、KiC と ABA との間で両団体の活動を活性化させるための MOU を締結した上で、日本のような工業会活動を韓国内に展開したいとの提案がされた。

アルミニウム合金材料の工場塗装に関する情報交換を主目的とする協力をする内容で、MOU を締結することで両団体の了解が得られ、今回の訪韓時に両団体の会長による署名と捺印をすることで権 理事との間で調整ができたから、今回の MOU 締結が実現した。

韓国には未だ専門企業の工業会による活動が少なく、日本のような工業会活動を KiC が今後推進していく上で最初の事例となり、今回の MOU 締結は大きな意義を持つことになろう。また、近い将来には、韓国内に工場塗装の工業会が設立されれば、ABA との交流が展開されると期待できる。

4.3 KiC と ABA の MOU 締結

11 月 13 日（金）午後 4 時 30 分からソウル特別市江南区にある KiC 事務所において、国際交流委員長を務める湖西大学校 権 教授の通訳を交えての司会のもとで、KiC と ABA の活動協力に関する MOU 調印式が開催された。

体調の都合により、ABA 宮越会長が本視察には不在であったため、近藤旭理事が会長の代行を務めることになり、ABA 宮越会長が事前に署名した MOU を日本から持参した。

先ず初めに、KiC の Kyung-In Kang（姜）会長から挨拶があり、次いで、ABA を代表して近藤旭理事（関東ブロック統括）兼広報・HP 推進担当が挨拶をして、ABA の概要を説明するとともに、MOU 締結に対する祝辞を述べた。

MOU の内容を司会の権 教授が読み上げ、KiC 姜会長が MOU に署名した後、両代表が調印して締結が完了した。

KiC 側の MOU 調印式への参加者は、以下の通りである。

Kyung-In Kang 会長（Korea University）

Young-Jin Kwon 理事（Hoseo University）

Jin-Man Kim 理事（Kongju National University）

Jongsoo Choi 理事（Dongguk University）

Dong-Woo Ryu 理事（Daejin University）

Sung-Min Choi 理事（Korea Institute of Construction Technology）



写真 4.3.1 KiC と ABA の MOU 締結



写真 4.3.2
学会の看板



写真 4.3.3 開会の辞



写真 4.3.4 MOU の調印



写真 4.3.5 調印式への全参加者

4.4 秋季大会参加

視察の最終日であるため、ホテルのチェックアウトを済ませ荷物を持参して、KiC 秋季大会に参加するため、ソウル市西大門区に位置する延世大学校新村キャンパスに向かった。KiC 側の配慮で、今回の MOU 締結を記念して秋季大会での特別講演が企画された。

正門をくぐり、真新しいキャンパスのメインストリートを前日から降り続く小雨の中を 5 分程歩いて、大会会場であるホールに到着した。

日本建築学会や日本建築仕上学会のような日本国内の年次大会とは異なり、国際会議のような立派な会場設営であった。



写真 4.4.1 延世大学校新村キャンパス



写真 4.4.2 大会会場入口



写真 4.4.3 秋季大会プログラム

4.5 特別講演

特別講演では、まず初めに ABA 近藤旭理事が、『日本のアルミニウム合金材料の工場塗装と ABA の活動主旨』と題して講演した。本講演では、ABA の概要を紹介することとどまらず、創設に至った経緯、ABA の目的や活動方針、創設から 2 年間における活動報告とともに、今後における ABA の活動方向や課題などを披露した。



写真 4.5.1 特別講演 近藤旭 ABA 理事

2 番目の講演は、近藤照夫 ABA 顧問から、『日本におけるアルミニウム合金建築材料に対する環境配慮形塗装の研究開発』が紹介された。

まず、日本における従来からの工場塗装に対する考え方や標準仕様書（『建築用アルミニウム合金材料 焼付け塗装標準仕様書・同解説（2005年刊）』及び『建築用アルミニウム合金材料 加熱硬化形溶剤系塗装標準仕様書・同解説（2013年刊）』）発刊への経緯を説明した。続いて、日本建築学会や日本建築仕上学会における素地調整や粉体塗装に関する数多くの実験結果に関する口頭発表や論文の内容を紹介して、高品質の材料を製造するとともに、環境に対する配慮を重視する日本の取り組み姿勢を示した。

その他、（一社）軽金属製品協会による粉体塗装に関する実態調査に基づく耐久性予測や QUALICOAT や AAMA に拘らず日本の実情に即した粉体塗装の性能評価規格制定、さらには ABA が昨年実施した米国フロリダ・アリゾナの ATLAS 社屋外暴露試験場視察の概要も報告した。

講演の中で特に印象的であったことは、このような様々な研究成果を具現化する立場として ABA が位置づけられていることである。我々 ABA を構成する一員として、高い品質、そして環境に配慮した塗装を実践していくことを海外へも公約した強い意志を抱いた。

また、講演の最後には、韓国建築施工学会から講演をした両者に感謝牌が贈られた。



写真 4.5.2 特別講演 近藤照夫 ABA 顧問



写真 4.5.3 感謝牌の贈呈

本特別講演では KiC 国際交流委員長である湖西大学の権 教授に司会と通訳を務めていただき、この場を借りて感謝の意を表したい。

5. まとめ

ABA による 2015 年海外視察の対象として韓国が選定され、塗装工場の視察、粉体塗装建築外装の調査および KiC との MOU 締結と特別講演を実施して、以下のような成果が得られたと判断される。

- (1) 塗装工場として Seoul Metal 社と Merco 社を訪問して、一般に日本国内では見られない縦吊り塗装設備およびスプレー方式による酸脱脂とクロムフリー系化成皮膜処理、水洗による素地調整工程を視察した。参加者各位は、日本で採用されていない塗装設備に各々の興味を抱き、各工程に対する品質管理や塗装終了後の検査が日本のように実施されていないことを把握した。
- (2) ポリエステル系粉体塗装を採用した建築物として、現代産業開発本社ビルと第 2 ロッテワールド低層棟の外装を調査した。採用された色調見本を配付されたが、適用対象が 20m 以上離れた部位であり、十分な評価はできなかったが、前者は施工後 10 年以上を経過しているが、外観上は軽微な色調変化であり、明確な経年変化が認められず、違和感は無状態である。また、後者は施工後 2 年程度であり、明確な経年変化を判断することはできず、表面紋様を有する周辺の大石パネルの汚れと相まって、前者と同様に全体として違和感は無と考えられる。
- (3) KiC と ABA による情報交換を目的とする MOU 締結は、KiC 国際交流委員長である湖西大学校権 教授による司会と通訳の下に、予定通り順調に進行した。KiC 姜 会長（高麗大学校教授）ABA 会長を代行した(株)マルシン代表取締役である近藤 旭理事が挨拶した後に、MOU への署名と捺印がされたことにより、今後の両団体の発展が期待できる。
調印終了後の懇親会においても、両国参加者が友好的な関係を深めるのに、有意義なものになったと思われる。
- (4) MOU 締結を記念して、KiC 秋季大会において国際交流特別講演会が企画され、ABA 近藤旭理事による「日本のアルミニウム合金材料の工場塗装と ABA の活動主旨」および近藤照夫顧問による「日本におけるアルミニウム合金建築材料に対する環境配慮形塗装の研究開発」を講演した。高品質の材料を製造するとともに、環境に対する配慮を重視する日本の取り組み姿勢とともに、そのような塗装を実践していく ABA の活動を海外に向かって示すことができたと考えられる。
- (5) 参加者各位が、各々の立場や経験、知識によって、今回の韓国視察から得られた成果は異なるかと思われるが、今後の業務に生かしていただければ、幸いである。

今回の訪韓を企画いただいた ABA 後藤専務理事、ツアーコーディネータを務めていただいた近藤 旭理事、韓国企業との調整をいただいた(株)バルクケミカルズ・ジャパン手嶋社長と(株)高砂商店高岡部長に謝意を表します。また、参加された皆様が規律を守った行動をしていただいたご協力に感謝申し上げます。